

競技運営に関する注意事項

埼玉県野球連盟東部連合会

本大会は本年公認野球規則・競技者必携に定める規則、取り決め事項を適用して行う。

1. 代表者会議で説明又は決められた事項は、必ずチーム全員に徹底させること。
2. 参加申込書（参加原簿）提出後は、選手の追加、変更及び背番号の変更は認めない。
3. ベンチは、組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。
4. その日の第1試合のチームは、試合開始予定時刻の90分前までに球場に到着し、大会本部へ到着の連絡を行い本部から打順表（5枚複写）を受け取ること。
5. 打順表（登録された者全員を記入し、フリガナをつけること）の提出は、その日の第1試合は、試合開始予定時刻30分前までに、第2試合以降は前の試合の4回終了時まで監督又は主将が大会本部に提出し、登録原簿と照合の後、球審立会いのもとに攻守の決定をする。
6. シートノックは行わない。
7. 球場内でのフリーバッテングは禁止とする。（トスバッティングのみ認める）
8. 先発バッテリーのブルペンでの投球練習は禁止する。
なお、天候や試合状況及び球場等を考慮するときは、本部から指示する。
9. その日の第1試合に出場のチームは、外野地域に限り練習を使用してもよい。その際、アップ用の服装（同一が望ましい）でもよいが、打順表の提出時には、全員ユニホームに着替えること。
10. 第2試合以降のチームは、グラウンドの整備中に限り外野のフェール・グラウンドでキャッチボールを行ってもよい。
11. ベンチ内での電子機器（携帯電話、パソコン等）及び携帯マイクの使用を禁止する。
ただし、メガホンはベンチ内に限り1個の使用を認める。
12. 第2試合以降は試合開始予定時刻前でも、前の試合が終了した後20分を目安に次の試合を開始する。試合開始予定時刻になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなします。
13. 組み合わせ表にある試合開始予定時刻はあくまでも予定であり、第2試合以降のチームは、予定時刻の90分前までに集合しチーム代表者は大会本部へ到着を届けること。
14. ベンチに入れる人員は、登録されたユニホームを着用した監督30番、選手20名以内と、チーム代表者、マネージャー、スコアラーの各1名とする。（スコアラーが女性の場合は、スポーツ行事にふさわしい服装してベンチに入ること。）
15. サングラスの使用については特に制限はないが、投手のミラーレンズは使用出来ない。
16. 試合中、フェールグラウンド（ブルペン等）でウォーミングアップを行う場合、その人数は2組（4名）以内とする。※バッテリー及び野手を含む
17. 選手のスパイク使用については、特に色・模様について制限を設けない。
18. 選手の背番号は、0～99まで使用可能とする。但し監督、主将は従来通りとする。
19. 大会で使用するボールは各チームで1試合2個（ナガセケンコーボール、新品）を試合前、大会本部に提出すること。
20. ローゼンは大会本部で用意します。
21. 参加チームの監督・選手は、障害保険等に必ず加入すること。

大会に棄権した時の処理内規

◎チームに対する処置

1. 棄権した原因がチームにある場合。
そのチームは1年間各種大会への出場停止。
2. 不慮の災害により棄権した場合。
下記の場合はやむ得ないものとして特別の処置は行わない。
 - (1) 天災により参加不可能となったとき。
 - (2) 集団罹病により参加不可能となったとき。
 - (3) 交通事故で参加不能となったとき。
3. その他の場合。
埼玉県野球連盟東部連合会理事会で決定する。

◎支部に対する処置。

翌年度の同種大会への支部代表の出場停止、その他の処置をされることがある。

大会規律

大会において、不正を行いたるチームに対しては次の処置を行う。

1. 試合中に発見された場合は、相手方に勝利を与える。
2. 試合終了後に発見された場合は、次の相手方に勝利を与える。
3. 決勝戦後に発見された場合は、準優勝チームを優勝チームとする。

競技上の注意事項・大会特別規則

1. 正式試合

(1) 試合は7回戦とする。 暗黒・降雨などで7回までイニングが進まなくて5回(4回1/2)を終了すればゲームは成立する。

(2) 得点差によるコールド・ゲームは、5回以降7点差とする。

2. 延長戦

本大会は7回(決勝に限り9回までとする。)を過ぎても勝敗が決しない時は特別延長戦を行う。

3. 特別延長戦(タイブレイク方式)

継続打順で、前回の最終打者を1塁走者とし、その前の打者を2塁の走者とする。すなわち、0アウト 1、2塁の状態にして1イニングを行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返す。なお通常に延長戦と同様に規則によって認められる交代は許される。

ただし、特別延長戦は、2イニングまでとし、勝敗が決しない場合は抽選とする。

4. 特別継続試合

暗黒・降雨などで5回(4回1/2)以前に中止になった場合、また、5回を過ぎ正式試合になって同点で試合が中止の場合も再試合としないで、次の期日の第1試合に先立って特別継続試合を行う。

5. 特別継続試合の再開

(1)もとの試合が中断された箇所より再開する。

(2)両チームの出場者と打撃順は、試合が中断されたときと全く同一でなければならない。但し、規則によって認められる交代は許される。

(3)もとの中断された試合に出場して、途中他のプレーヤーと交代してその試合より退いたプレーヤーは、再開される試合には出場できない。

6. 抗議権を有する者

(1) 監督又は主将と当該プレーヤーの内、1名とする。

7. 監督・コーチ等が投手のところへ行く回数の制限

(1) 監督又はコーチ等が投手のところへ行く回数は、1試合に3回以内とする。

なお、延長戦(特別延長戦を含む)となった場合は、2イニングに1回行くことができる。

投手交代の場合は、監督又はコーチ等は上記の回数に含まない。

(2) 監督又はコーチ等が、同一イニングに同一投手のところへ2度目に行くか、行ったと見なされた場合(伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところへ行かせた場合)は、投手は自動的に交代しなければならない。連盟では交代した投手が、他の守備位置につくことが許される。

なお、他の守備位置についたときは、同一イニングには再び投手に戻れない。

- (3) 監督又はコーチがプレーヤーとして出場している場合は、投手の所へ行けば、野手としての1度と数えるが、協議が長引けば、監督又はコーチが投手の所へ1度行ったこととして通告する。
8. 守備側のタイムの回数制限
- (1) 捕手又は内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数を3回以内とする。
なお、延長戦となった場合は、2イニングに1回行くことができる。野手（捕手も含む）が投手の所へ行った場合、そこへ監督又はコーチ等が行けば双方1回として数える（逆の場合も同様とする。）
- (2) 攻撃側のタイム中に守備側は支持を与える事が出来るが、攻撃側のタイムより長引けば守備側の1回とカウントされる。
9. 攻撃側のタイムの回数制限
- (1) 攻撃側にタイムは、1試合に3回以内とする。
なお、延長戦となった場合は、2イニングに1回行くことができる。
- (2) 守備側のタイム中に攻撃側は支持を与える事が出来るが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の1回とカウントされる。
10. 試合に出場する捕手は、安全のためにプロテクター、レガース、マスク、補手用ヘルメット、ファルカップを着用すること。また打者・次打者・走者及びコーチは、必ず耳付きヘルメットを着用すること。（いずれも公認されたもの。）
11. 試合中、攻守交替時に限り控え選手が外野の方向へランニングを認める。
12. ユニホームのストレートズボンに認めるが、同じチーム内にストレートタイプと異なったズボンをはいていても、同色、同意匠であれば差しつかえない。
13. 選手のネックウォーマーを認める。但しピッチャーは紺又は黒とする。
14. 故意四球（申告敬遠）については、監督がタイムを要求し、故意四球の意思を球審に示すこと。球審はタイムをかけて打者に1塁へ進塁の指示を行う。投手の投球数には含まない。
15. 白岡球場の禁止事項：①遊歩道部分へのスパイク歩行禁止
②会場外（グラウンド外）でのキャッチボールを禁止する。
宮代球場での注意事項：グラウンド外でのキャッチボールは遊歩道部分禁止。

試合中の禁止事項

1. マスコットバットを次打者席に持ち込むことは差し支えないが、プレイの状況に注意し、適切な処置をする。球場内での素振り用鉄パイプ及びリングの使用を禁止する。
2. 投手が手首にリストバンド、サポーターなどを使用することを禁止する。負傷で手首に包帯などを巻く必要があるときは、大会本部等の承認が必要である。
3. 危険防止のため、足を高く上げてのスライディングを厳禁する。現実にこれが妨害になったと審判員が認めた場合は、守備妨害で走者をアウトにする。
4. 作為的な空タグは禁止する。現実に妨害（よろめいたり、著しく速度が鈍った場合）になったと審判員が認めた場合は、オブストラクションを適用する。
5. プレーヤーが塁上に腰を下ろすことを禁止する。
6. 守備側からのタイムで試合が停止されたとき、その間の投手は捕手を相手に投球練習をしてはならない。
7. 捕手用ヘルメットとマスクの一体製品は使用禁止とする。

8. 試合が開始されたら、控えの選手は試合に出場する準備（交代選手のキャッチボール）をしている者の他は、ベンチ内にいなければならない。
9. 次打者は、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。（5.10k 【注1】）
10. 塁上の走者、あるいはコーチボックスやベンチから守備側（捕手）のサインを盗み、それを打者に伝達することを禁止する。
11. 試合中の喫煙及びガムをかむ等は禁止する。
12. チャンスや得点をあげたときなど、みだりにベンチ内のリーダーが音頭をとって、声を揃えて歓声をあげ拍手するようなことをしてはならない。
13. 相手チームや審判員に対する聞き苦しい野次は厳禁とする。また、スタンドで自チームの側の野次もチームの責任とする。
14. もめ事の時、審判員や相手側のプレーヤーに手をかけることを厳禁とする。

試合のスピードに関する事項

1. 攻守交代は、駆け足で行うこと。ただし、投手に限り内野手地域は歩いても差し支えない。また、監督、コーチが投手のもとへの行き帰りは、小走りでスピーディに行うこと。
2. 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。また捕手から返球を受けた投手は速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
3. 打者は速やかに打者席に入り、バッターボックス内でベンチ等からのサインをみること。
4. 試合中、スパイクの紐を意図的に結び直すためのタイムは認めない。
5. 内野手間の転送球は一回りとする。各イニングの始めに捕手より2塁に送球した時だけとし、それ以降は認めない。また天候状態・試合進行状況によっては、審判員の判断で途中からでも全面的に禁止する場合もある。
6. 攻守交代の時に、最後のボール保持者は、投手板にボールを置いてベンチに戻ることに。
7. 代打または代走の通告は氏名とともに「代打者」又は「代走者」の背番号を球審に見せその旨を告げることとし、球審も放送席に向かって選手の背番号を見せて、「代打または代走」と告げること。
8. ファールボールの球の処理について
 - ①ベンチ前に飛んだものは、ベンチサイドで拾い球審に手渡すこと。
 - ②捕手の後方に飛んだ球は攻撃側で拾い球審に手渡すこと。
9. 雨天の場合
 - (1) 雨天の場合でも日程の都合上、球場が使用可能な場合は試合を行う。
 - (2) 当日試合が全て行わない場合と、午前中見合わせて午後より行う場合があるのでチームより積極的に問い合わせること。(チームを代表する者1名)

雨天決定時刻は原則として、午前6時30分とする。

問合せ先： 久喜市野球連盟：理事長 山下 肇